

第 5 回（2023 年度）ふしの干潟いきもの募金の実績について

1 収入（2024 年 3 月 31 日時点）

区分	金額（円）
前期繰越	649,665
募金活動 ^{※1} 、募金箱 ^{※2} 、寄附 ^{※3}	172,360
受取利息	1
合計	822,026

※1 イベント時の募金活動、研修会等での事例発表時の募金活動等

※2 募金箱は回収済の金額

※3 あいおいニッセイ同和損害保険(株)から 100,000 円、榎野川漁業協同組合から 20,000 円の寄附

2 支出（2024 年 3 月 31 日時点）

区分	金額（円）
第 5 回ふしの干潟いきもの募金支援対象事業	161,064
事務局支出（感謝状筆耕、振込手数料）	5,610
小計	166,674
次期繰越	655,352
合計	822,026

3 第5回（2023年度）ふしの干潟いきもの募金支援対象事業一覧

2023 年度						
実施者		活動名	配分額	清算額	適合性の確認	
					活動区分	経費
カブトガニ WG	原田 直宏	カブトガニ幼生生息調査・観察会	50,000	23,753	○	○
榎野川流域連携促進協議会		榎野川河口干潟再生活動2023	200,000	50,961	○	○
事務局		物品購入費（被覆網）	200,000	86,350	○	○
小計			450,000	161,064		
ふしの干潟いきもの募金委員会事務局		事務費（振込手数料等）	10,000	5,610		
合計			460,000	166,674		

<参考> 2023 年度ふしの干潟いきもの募金出納簿

No.	收受日	分類	募金箱No.	募金箱場所	内容	口座入金日	金額(円)			口座
							収入	支出	残高	
1	4月1日	繰越金	—	—	前年度繰越金 (西京銀行)	—	166,757		166,757	西京銀行
2	4月1日	繰越金	—	—	前年度繰越金 (山口銀行)	—	482,908		649,665	山口銀行
3	4月19日	支出	—	—	榎野川流域連携促進協議会概算払い (100,000円)	4月19日		100,000	549,665	山口銀行
4	4月22日	寄附	—	—	榎野川漁協寄附	5月19日	20,000		569,665	西京銀行
5	4月22日	寄附付き商品	—	—	干潟再生活動 ふしの干潟せんべい寄附 (50枚分)	5月19日	5,000		574,665	西京銀行
6	4月22日	募金活動	—	—	干潟再生活動 一般募金	5月19日	10,790		585,455	西京銀行
7	6月9日	支出	—	—	榎野川流域連携促進協議会概算払い (100,000円)	6月9日		100,000	485,455	山口銀行
8	6月9日	支出	—	—	事務局 (被覆網の購入)	6月9日		200,000	285,455	山口銀行
9	6月9日	支出	—	—	カブトガニWG概算払い (50,000円)	6月9日		50,000	235,455	山口銀行
10	6月22日	募金箱	004-01 (013-001)	山口県職員会館 (県庁売店)	募金箱の回収	6月22日	5,966		241,421	西京銀行
11	8月21日	利息	—	—	利息	8月21日	1		241,422	山口銀行
12	8月27日	募金活動	—	—	瀬戸内海研究フォーラム募金	9月26日	2,404		243,826	西京銀行
13	9月26日	募金箱	004-01 (013-001)	山口県職員会館 (県庁売店)	募金箱の回収	9月26日	7,296		251,122	西京銀行
14	1月10日	募金箱	004-01 (013-002)	山口県職員会館 (県庁売店)	募金箱の回収	1月12日	11,154		262,276	西京銀行
15	1月19日	寄附	—	—	一般寄附 (EROS スギモト)	1月19日	3,000		265,276	山口銀行
16	1月25日	寄附	—	—	あいおいニッセイ同和損害保険(株)からの寄附	1月25日	100,000		365,276	西京銀行
17	1月31日	募金活動	—	—	セミナー、研修会での募金活動 (2回分)	2月2日	6,750		372,026	西京銀行
18	2月22日	支出	—	—	あいおいニッセイ同和損害保険(株)への感謝状 (5,500円+振込手数料110円)	2月22日		5,610	366,416	山口銀行
19	3月26日	返金	—	—	事務局 (被覆網の購入費残金200,000円-86,350円=113,650円)	3月26日	113,650		480,066	山口銀行
20	3月28日	返金	—	—	概算払いの精算 (カブトガニWG50,000円-23,753円=26,247円)	3月28日	26,247		506,313	山口銀行
21	3月29日	返金	—	—	概算払いの精算 (榎野川流域連携促進協議会200,000円-50,961円=149,039円)	3月29日	149,039		655,352	山口銀行
—	—	—	—	—	返金に係る出納簿処理 (事務局被覆網)	—	-113,650	-113,650	655,352	山口銀行
—	—	—	—	—	返金に係る出納簿処理 (カブトガニWG)	—	-26,247	-26,247	655,352	山口銀行
—	—	—	—	—	返金に係る出納簿処理 (榎野川流域連携促進協議会)	—	-149,039	-149,039	655,352	山口銀行
合計						西京銀行	169,360	0	336,117	
						山口銀行	3,001	166,674	319,235	
						合計	—	—	655,352	
							収入	支出	収入—支出	
						今年度	172,361	166,674	5,687	

第5回(2023年度)ふしの干潟いきもの募金支援対象活動実績報告書

受付番号 23-1

1. 申請者(活動実施者)

氏名・団体名	カブトガニワーキンググループ リーダー 原田 直宏(山口カブトガニ研究懇話会)
--------	--

2. 活動内容

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	山口湾カブトガニ幼生生息調査・観察会
活動目的	山口湾には、絶滅危惧種であるカブトガニが生息しており、その生息状況を把握し、保護を図ることを目的とする。また、干潟を体験できる機会を設ける。
活動について	<p>① 概要 山口湾長浜および南潟に生息するカブトガニ幼生の生息状況を調査した。また、長浜においては、子どもたちとその保護者を対象として、カブトガニ幼生の観察会を並行して行った。</p> <p>② 当初計画との相違点(スケジュール、内容等) 概ね計画通りに実施できた。</p> <p>③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望 幼生生息調査は、長浜では60名が参加し、南潟では10名が参加した。長浜では、20レーンで436個体、南潟では、5レーンで94個体の幼生を確認した。 観察会には、55名もの参加者があり、カブトガニをはじめとした干潟生物の観察や、干潟そのものを体験する貴重な機会になったものとする。 コロナ禍で調査規模の縮小や観察会の中止を余儀なくされていたが、今年度はコロナ禍前と同様に実施でき、多くの参加者も集まった。 暑い時期に実施することから、熱中症対策について、参加者数に応じたスタッフ配置や対策品の準備等、より配慮する必要があると考える。 貴重なデータを積み重ねており、今後も継続して取り組んでいく。</p>

3 支出内訳

配分額	(概算払) 50,000円	助成金額	23,753円
予算の支出期間	2023年8月～2023年8月		
支出	応募案内中の表1:①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	14,360	ボランティア参加者飲み物 (長浜及び南潟分154本)
	備品・消耗品費	6,728	塩分タブレット、GPS用単3電池(10本×3)、養生テープ
	保険料	2,280	8/19カブトガニ幼生調査・観察会保険(120名)
	事務管理費	385	振込手数料
	合計	23,753	

1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	榎野川流域連携促進協議会
--------	--------------

2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 環境学習等の親水活動 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善
活動名	榎野川河口干潟再生活動 2023
活動について	<p>① 概要</p> <p>2008年度から南潟において住民参加型の干潟再生活動を実施しており、活動は、例年春にイベント形式で開催し、地域住民、企業、大学等の多くのボランティアの協力を受けている。今年度は、4月22日に以下のとおり実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実施日：2023年4月22日（土） ● 場 所：榎野川河口干潟（南潟）、旧山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所 ● 主 催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所 ● 協 力：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店、(株)積水ハウス山口工場、水産大学校、山口大学 ● 参加者：169人（スタッフ込み） ● 内 容：榎野川の恵みを味わう試食会（山菜の天ぷら） 寄附付き商品の販売、募金活動 アサリ再生活動（被覆網のメンテナンス、アサリ稚貝の育成） <p>② 当初計画との相違点（スケジュール、内容等）</p> <p>概ね当初の計画通りに実施した。 山口県立大学の協力について、調整できなかった。</p> <p>③ 活動の効果、反省点、課題、今後の展望</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、4年ぶりに開催したが、多くの参加者の協力を得て取組を行うことができた。</p> <p>ただし、採捕できたアサリの量が少なく、参加者全員へ配布することができなかった。 榎野川流域の関係者の連携の象徴的な取組であり、親水性の向上にも寄与している取組であることから、今後も継続して取組を実施する。</p>

3 支出内訳

配分額	(概算払) 200,000 円	助成金額	50,961 円
予算の支出期間	2023年4月 ～2023年4月		
支出	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	46,776	ボランティア用飲料代(216本分) 20,528円 試食会及び干潟活動関係品(天ぷら材料費、皿、箸、洗剤、軍手等) 26,248円
	保険料	3,800	4/22干潟再生活動保険(200名)
	事務管理費	385	振込手数料
	(備品・消耗品費)	(5,000)	寄附付き商品発注費(ふしの干潟せんべい) ※売上から差引し、募金として入金のため、経費として計上なし
合計	50,961		

1. 申請者（活動実施者）

氏名・団体名	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
--------	------------------

2. 活動計画

活動区分	<input checked="" type="checkbox"/> 干潟環境の向上・保全、景観の保全 <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の向上、漁場環境の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究・モニタリング
活動名	被覆網のメンテナンス・交換
活動目的	<p>榎野川河口干潟（南潟）において、実証試験や干潟再生活動を通じて、現在、約250枚、2,000㎡の被覆網を設置している。</p> <p>近年、被覆網の設置枚数が増加し、定期的に被覆網をメンテナンス（洗浄）して再利用しているが、老朽化が著しく、破損したものが増加しており、被覆網を用いた調査やアサリの再生活動に支障が生じつつある。</p> <p>特に、アサリの再生は、ふしの干潟いきもの募金の寄付者が活動成果を実感できる仕組みづくりとして重要な位置づけであり、干潟再生活動やモニタリング等の機会に、ふしの干潟ファンクラブ等のボランティアに御協力いただき、被覆網を交換する。</p>
活動について	<p><被覆網のメンテナンス・交換活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 4月22日の「榎野川河口干潟再生活動2023」及び二枚貝等定期モニタリング等において、ボランティアに協力いただき、破損や老朽化等のあった被覆網を交換した。 破損せず、藻が付着しているのみの被覆網は、補修やメンテナンス（洗浄）し、再利用した。

3 支出内訳

配分額	(概算払) 200,000円	助成金額	86,350円
予算の支出期間	2024年3月～2024年3月		
支出	応募案内中の表1：①～⑦の項目ごとに記入してください。		
	区分	支出額(円)	内訳
	備品・消耗品費	85,800	被覆網購入15枚 (@5,200円×15)、消費税7,800円
	手数料	550	振込手数料
	合計	86,350	

学術研究・調査

カブトガニ幼生生息調査

(1) 長浜・南潟における調査

① 調査概要

● 長浜の実施概要

- ・実施日：2023年8月19日(土) 13:15～17:15 【中潮、最干潮16:23、潮位62cm】
- ・主 催：カブトガニWG
- ・協 賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店、
中村さん(調査終了後の参加者にアイスの提供)
- ・参加者：60人

● 南潟の実施概要

- ・実施日：2023年9月15日(金) 12:00～15:30 【大潮、最干潮15:01、潮位61cm】
- ・主 催：カブトガニWG
- ・参加者：10人

● 調査方法

- ・設定した調査ライン上を1～3人で歩き、1ライン当たり2m幅で発見したカブトガニ幼生について、①個体数、②前体幅、③発見地点を記録(ベルトトランセクト法)。
- ・長浜では、16m間隔で20ライン(1,020m)の範囲を調査。南潟では、60m間隔で6ライン(1,000m)の範囲を調査。

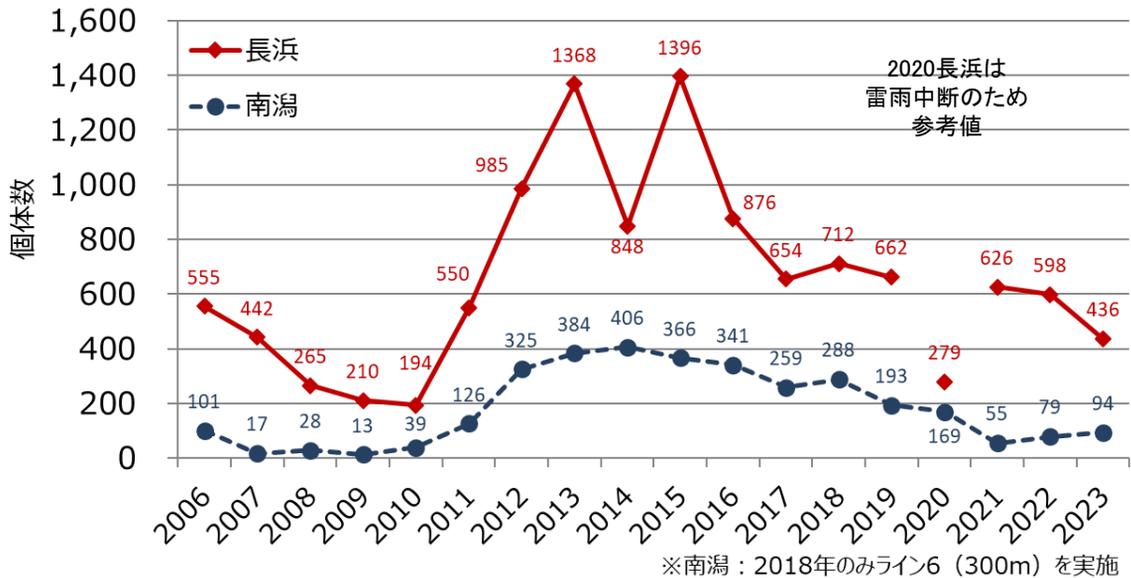


② 調査結果

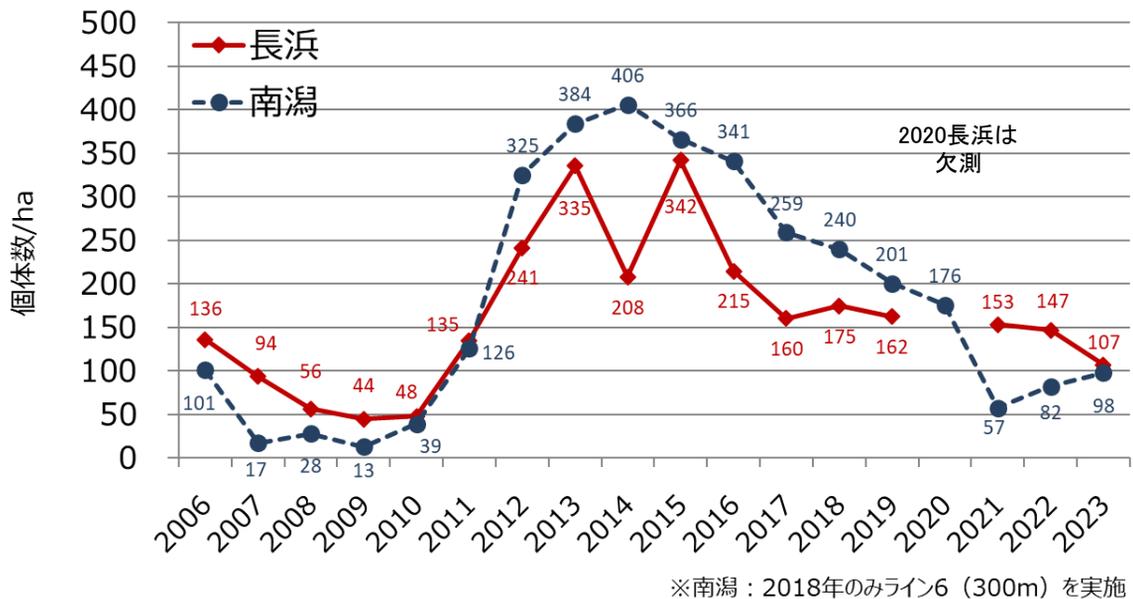
● 発見個体数・推定個体密度

長浜では、20ラインで436個体、南潟では、5ラインで94個体を確認した。
推定個体密度は、いずれもおよそ100個体/haであった。
長浜は若干の減少傾向が見られる。

長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <発見個体数>



長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <推定個体密度>



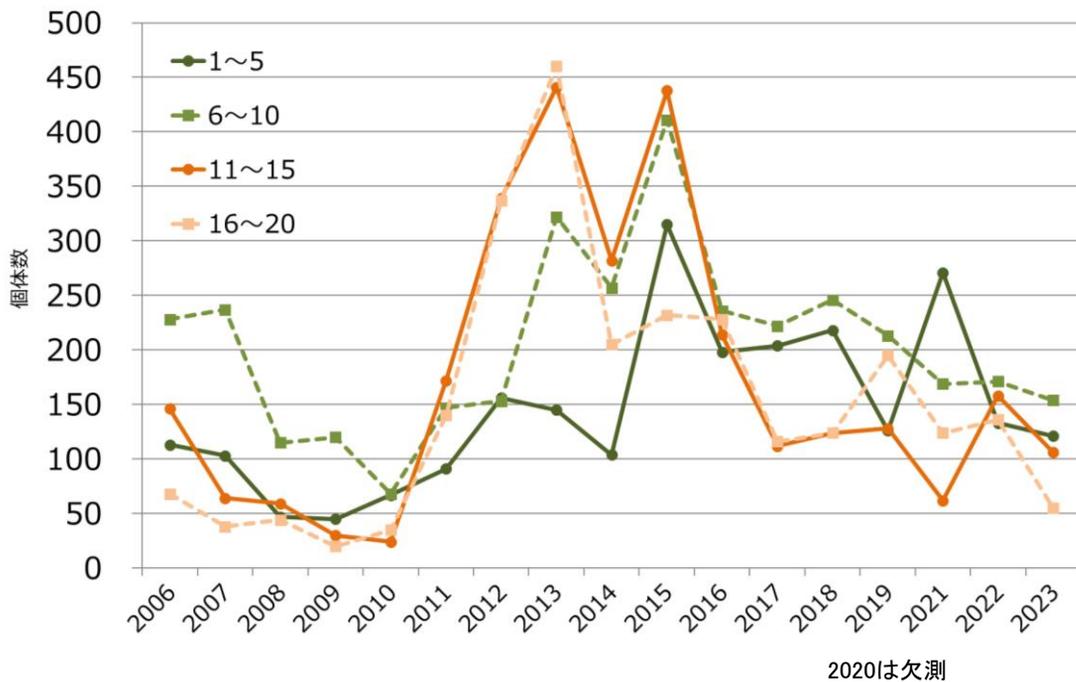
● ライン別の発見個体数

2020年度の長浜は、雷雨による中断のため、欠測。

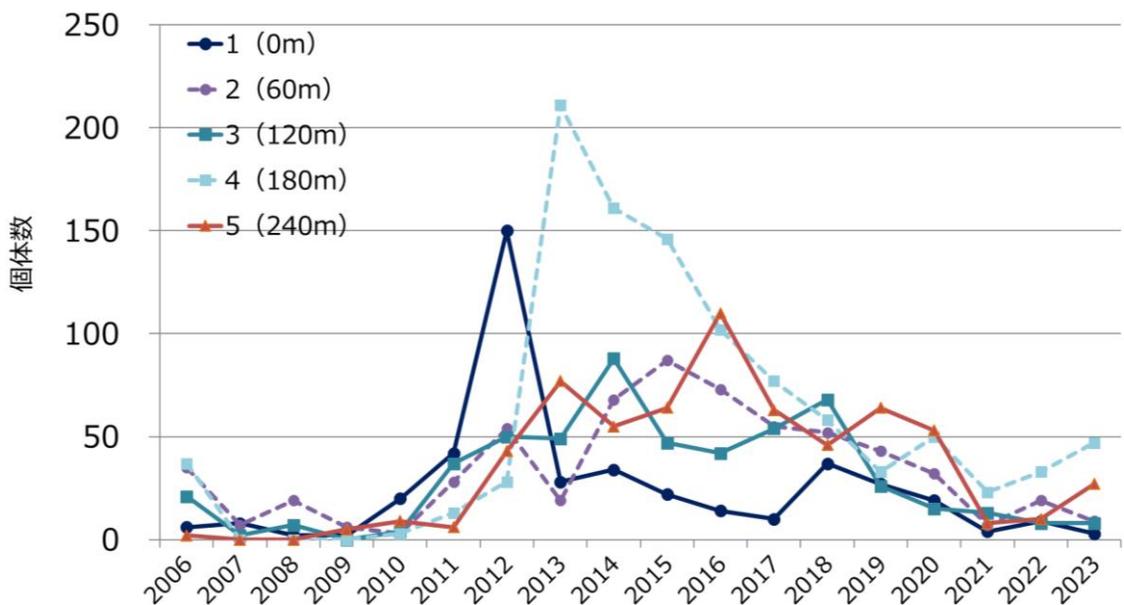
長浜では、特に、西側のライン11～20が減少傾向。

南潟では、南側（沖側）が増加傾向、北側（岸側）が減少傾向。

長浜のカブトガニ調査結果 <5ラインごとの発見個体数>



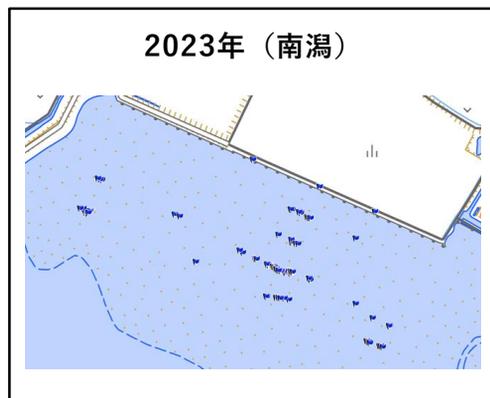
南潟のカブトガニ調査結果 <ライン別の発見個体数>



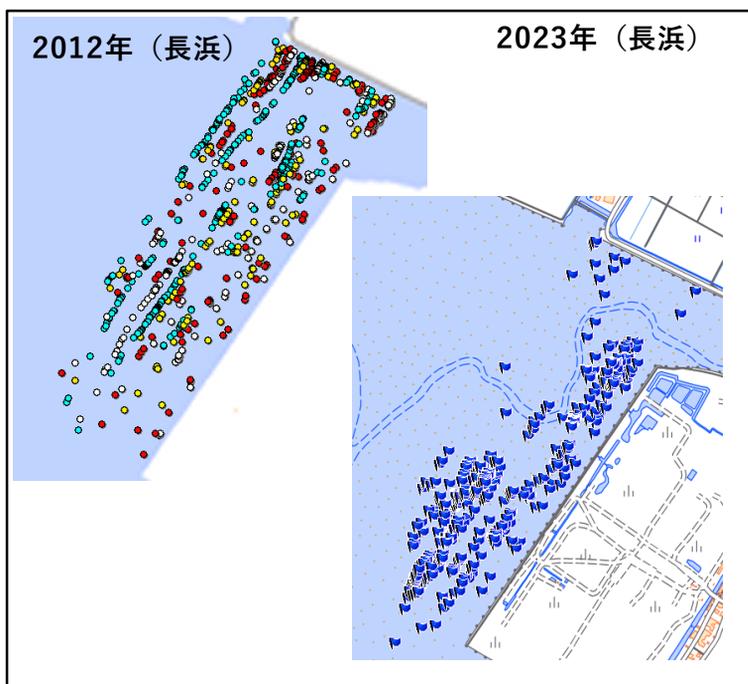
● 発見地点

長浜・南潟いずれも発見地点に偏りが見られる。

また、過去の地点と比較して、発見数の多い場所の変化も見られる。



※カシミール3D フリー基本セット使用

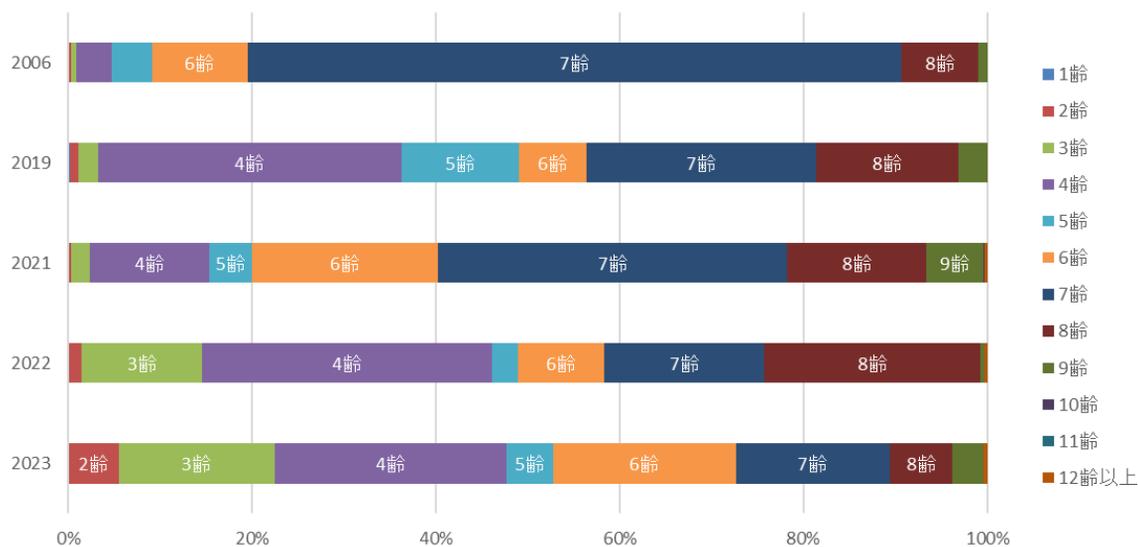


● 齢数の割合

前体幅から齢数を推定。近年は3～6齢の若い齢数の割合が比較的増加。

2020年は、雷雨中断のため欠測。

長浜+南潟カブトガニ幼生生息調査結果 < 齢数別割合 >



環境学習

カブトガニ観察会

(1) 開催概要

- ・開催日：2023年8月19日(土)13:45～16:00 ※ カブトガニ幼生生息調査と併せて開催
- ・主催：カブトガニWG
- ・協賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店

(2) 参加者

55人(うち子ども26人、スタッフ含む)

(3) 取材

山口新聞、読売新聞、宇部日報、K R Y、山口ケーブルビジョン



自然再生活動

1 榎野川河口干潟再生活動2023

(1) 開催概要

- ・開催日：2019年4月22日(土) 12:45～16:00 【大潮、最干16:02、潮位7cm】
- ・場 所：旧県漁協吉佐支店山口きらら支所、南潟
- ・主 催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
- ・協 力：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店、
積水ハウス(株)山口工場、水産大学校、山口大学、
榎野川河口域・干潟自然再生協議会

(2) 参加者

- ・169人(スタッフ含む)
- ・学生：水産大学校、山口大学
- ・企業等：協賛・協力企業、ふしの干潟ファンクラブ 等



あいおいニッセイ同和損保(株)山口支店



積水ハウス(株)山口工場



水産大学校、山口大学



集合写真

自然再生活動

(3) 実施内容

① 榎野川の恵みを味わう試食会

- ・榎野川流域の山菜の天ぷら …榎野川流域連携促進協議会
- ・あゆ飯の販売 …榎野川漁業協同組合



② 募金活動

- ・試食会会場において、募金活動及びふしの干潟いきものせんべい（寄付付き商品）の販売を実施。合計15,790円の寄付金を収受した。
- ・榎野川漁業協同組合より、販売したあゆ飯等の売上の一部から寄付(2万円)を贈呈。



③ アサリ再生活動(被覆網撤去等)

- ・海藻の付着した被覆網57枚を撤去した。
- ・はがした被覆網の下を掘り、アサリの生息状況を調査した。
(殻長3cm以上：7.7kg、3cm未満：7.6kg)
- ・殻長3cm以上のアサリの一部を参加者へ配布した。



④ 網袋による稚貝育成活動

- ・事前に行った稚貝調査で稚貝の多かったポイントの表土を網袋120袋に入れ、干潟に設置した。（網袋の中で育ったアサリは、9月に被覆網下へ放流した。）



自然再生活動

2 アサリ再生活動

(1) 被覆網の設置について（南潟）

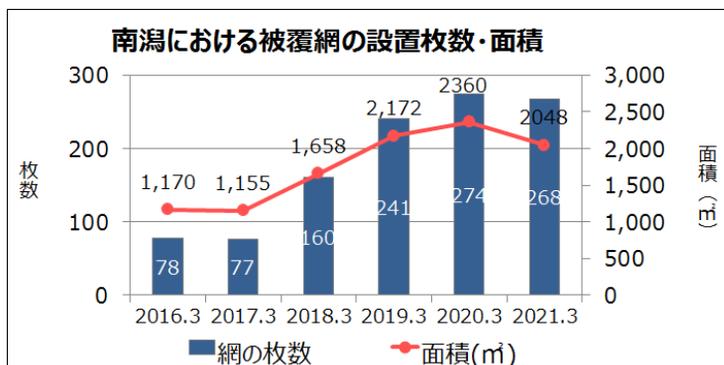
アサリが、ナルトビエイ、カニ、クロダイ、アカニシ、ツメタガイ等に食害されることを防ぐために設置。また、波浪による稚貝の飛散を防ぐ効果もある。アサリだけでなく、他の貝類や多毛類の増加にも効果があることが確認されている。

● 被覆網の仕様・設置方法

- ・主に使用している被覆網の大きさは、3m×3mで、目合は9mm。
- ・ナルトビエイの食害防止には30mm程度、カニ類の食害防止には9mm程度が必要である。
- ・1mの鉄筋杭で被覆網の頂点と辺を固定することにより、干潟に設置している。

● 設置面積等

- ・令和3年3月末時点で、総設置枚数は268枚、総設置面積は2,048㎡。
(現在の設置状況については、精査中。)



● 被覆網のメンテナンス

- ・海藻の付着した被覆網は、折りたたんで干潟に固定。
波によって海藻が取り除かれた後に再利用するが、老朽化により使用できないものは、今後撤去し、処分する予定。
- ・2023年度は、管理不足となっていた被覆網のメンテナンスを実施（撤去・交換等）。
- ・管理の負担軽減を考慮し、今後は被覆網の設置箇所の検討を進める。

(2) 網袋による稚貝育成について（南潟）

アサリをより効率的に保全するため、稚貝の段階から網袋により保護育成する方式を実施。2023年度は、網袋131袋を干潟に設置し、およそ5か月後に破損等を除く96袋を開封した。開封の結果回収できた推計約12,000個のアサリを被覆網下に放流した。放流後の状況をモニタリングするとともに、拡大実施等の検討を進める。

